

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）
考える子 心の美しい子 たくましい子	1 自ら考え、友と協働し合って問題を解決する子ども 2 友と認め合い、支え合って、互いを大切にしよう子ども 3 目標を持ち、自ら心身の健康を求める子ども

今年度の重点目標			評価平均	成果と課題
①	関わり合って考える子		2.9 B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあり、関わり合いの場面を設定することが難しい場面もあったが、意図的にかかわる場面を取り入れたことにより、グループ活動を中心に、共に考え合ったり教え合ったりする姿が見られた。 ・校長講話や学年集会等であいさつについて考え合う場を設けたことにより、明るく元気な挨拶が、少しずつ増えてきたように思われる。あいさつをしても返ってこない場合があるので、子どもたちの中であいさつの広がりが見られるよう、継続して声掛けをしていきたい。 ・外で元気に遊ぶ姿、マラソンや縄跳びに意欲的に取り組む姿が見られた。
②	すすんであいさつをする子		2.6 B	
③	元気に身体をきたえる子		2.8 B	
領域	評価項目	評価の観点	評価平均	成果と課題
学校教育	学習指導 授業導入の工夫	①子どもたちが一時間の見通しをもつことができているか。 ②子どもたちは興味関心をもって授業に臨んでいるか。	2.9 B	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ流れで授業を進めたり、「やること」「やり方」「今やっていること」を明確にして授業を進めたりすることで、見通しがもてるように心がけた。 ○前時の学習の想起や振り返りなど、前時の学習とのかかわりを意識した導入を心がけた。視覚教材を多く活用し興味をもたせることも行った。 ○見たい・知りたい・やってみたいなど新しいことに触れることを大切に。教材の提示を子どもの興味関心・課題意識を大切にしている。 ●興味をもつが深まりがなく、答えが出れば終わりという児童がいる。追究したくなる課題を設定していきたい。
	授業展開の工夫	③子どもの意欲・意識を大切に授業を行っているか。 ④体験活動や操作活動等の五感を働かせる活動を位置づけているか。	3.0 A	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動、操作活動は内容に応じて積極的に取り入れてきた。動作化や話し合い活動も効果的に授業に位置付けることができたと思う。 ○子ども同士の関わり合い、言語活動を多く取り入れるよう心がけた。授業に子どもたちの活動を位置付けたので、メリハリのある授業になったと思われる。 ●子どもの言葉を大切にしながら、短い時間で交流できる言語活動が課題である。子どもが考えたいこと、意欲をもって学ぼうとする姿への手立てがもう一歩だった。五感と絡ませる教材研究が必要である。
	授業終末の充実	⑤自分の学びをふり返ったり、友だちの学びを認め合ったりする場を設けているか。	2.7 B	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめや振り返りを自分の言葉で書いたり伝え合ったりする時間を確保するよう努めることにより、次時への疑問や課題、見通しをもつことができた。 ●算数ではふり返りが位置付いたが、他教科ではなかなか設定できなかった。ふり返りの内容や方法などは工夫が必要である。
生活	あいさつが響き合う	⑥あいさつの声が校内・校外で響き合う学校に向けて取り組んでいるか。	2.7 B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級や学年内では、自分から明るいあいさつをする姿が、少しずつ増えてきている。あいさつ標語づくりを学年で行い、意識の高まりを感じている。引き続き学校職員からの明るいあいさつを心がけていきたい。 ●あいさつをしても返ってこない子がいる。子どもたちのあいさつに対する必要感を育てるためにはどうしたらよいか課題である。
	早期発見早期対応の生徒指導	⑦学年・学校として、職員が連携して子ども達の課題に取り組んでいるか。	3.2 A	<ul style="list-style-type: none"> ○職員会議で生徒指導・児童理解の時間を設定している。全職員で情報を共有できている。学年会や日常の中でも、子どもの様子について話題にしている。 ○支援の先生が授業に入ったり、少人数学習や教科担任制で授業をしたりすることで、児童一人ひとりに行き届く指導が可能となっていた。 ○学年での授業、学年児童会、学年班、学年掃除など、学年の子どもと関わる機会を増やすことで、連携して子どもたちの様子を見守ることができた。
学級経営	学級づくり・仲間づくり	⑧道徳や特別活動の時間で、子どもと教師間・子どもと子ども間の信頼関係を構築する活動が行われているか。 ⑨子どもが自分を見つめ直し所属感を高めたりできるような相談・面接活動を行っているか。 ⑩体の成長に目を向けたり、積極的に体を動かしたりするような環境づくりや子どもたちへの働きかけを行っているか。	2.9 B	<ul style="list-style-type: none"> ○学級や体育の時間等に友だちと関わる時間をとったり、学級でレクリエーションを多く行ったりして、子ども同士の関係を深めることができた。 ○子どもからの訴えはしっかりと聞き、内容に応じた対応を行ってきた。子どもの気持ちに寄り添える相談や面談も大切に行った。 ○毎日クラスのすべての子に話しかけるよう心がけた。指導したときも、子どもたちが納得できるように話したりフォローしたりしている。 ○なわとびカードやマラソンカードなどで子どもたちの意欲が高まる取組や毎朝の体みがき体操により、運動の習慣が身につくようになってきた。 ○道徳では、子ども一人ひとりの考えを大切にしつつ、子ども同士の共感ができるような展開を心がけてきた。 ○友達のよさを認め合う時間や機会をつくっている。男女仲がよく温かい気持ちの子が多い。 ○一人一役で自分の役割に対し、願いをもって取り組めるようにしてきた。相手意識を明確にし、思いを行為に繋げるよう心がけてきた。 ●クラスの中でなかなかよい関係が築けない子どもたちの関わり方について、お互いの気持ちを理解して認めていかれるように指導していきたい。 ●体の成長についてはあまり働きかけをすることができなかった。子どもたちの実態に合わせてどのような働きかけができるかを考えていきたい。
学校運営	地域との連携	⑪学校・学年・学級の指導方針や様子について、学級懇談会やお便り、HPなどでわかりやすく伝えているか。	2.8 B	<ul style="list-style-type: none"> ○学年・学級便りを発行することで、活動の様子や担任の思いなどを保護者に伝えることができた。HPでも写真を掲載して、学校での様子を伝えている。 ●学級通信が出せないことが多かったため、もっと出していかれるよう努めていきたい。
	P T Aとの協力	⑫P T Aと協力しながら、よりよい学習活動や学習環境作りをめざした活動が行われているか。	2.8 B	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度のP T A作業は秋のみの実施とはなったが、保護者の皆様のご協力の下、環境を整えていただくことができた。 ○保護者の皆様には、おたより等を通してお願いしたことに対して、いつもご協力をいただきありがとうございました。 ●コロナの影響で、実施できる内容が限られてしまったため、P T A活動も制限され関わりも少ない状況であった。
	地域との交流	⑬神川小ボランティア・学習ボランティアがスムーズに行われているか。	2.4 B	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の給食、米作り、ミシン学習、休み時間や登下校中の見守り、P T A作業や草取り、日本語教室等の指導において、ボランティアとしてご指導・ご支援いただきありがとうございました。 ●コロナ禍のため、行事や活動、学習等において地域の方に関わっていただくことが難しかった。
研修	授業改善の研修	⑭「明日もきたくなる学校」の具現に向け、授業力向上のための研究や研修が実践できているか。	2.9 B	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふるさと部会」「学び合い部会」「家庭科部会」の3つの部会を立ち上げ、研究を重ねてきた。また、各自公開デーを設定し、授業を公開することにより、職員間で学び合うことができた。またプログラミング教育・デジタル教科書・オンライン授業について…など充実した研修ができた。 ●公開デーが設定されていたが、参観することが難しく、校内で生かし切れていない。